

エンジニアリング白書  
2018年度「エンジニアリング産業の実態と動向」

1. 全般

1982年に創刊し、今回で37回目の刊行である。

2. 傾向

- ・ 2017年度の国内受注高はオリンピック関連等が山を越え1.7%微増となり、海外受注高はエネルギー価格の回復等により前年度（2016年度）の減少から9.5%の増加に転じた。
- ・ 国内売上高は前年度の微減から2.7%増へ転じた一方で、海外売上高は-5.3%と前年度と同様に減少が継続した。総額では引き続き16兆円の大台は維持している。
- ・ 2018年度の受注見通しは、国内はオリンピック関連の新規投資が一段落するなど0.7%減に転じるが、海外はエネルギー価格値上げに伴う新規大型投資への期待もあり71.9%と大幅増を予測している。

3. 2017年度（2018年3月期）の受注と売上について

受注高：16兆7,746億円（前年度比3.0%増）

売上高：16兆756億円（前年度比1.0%増）

4. 2018年度（2019年3月期）の受注見通しについて

国内：13.9兆円（前年度比0.7%減）

海外：4.8兆円（前年度比71.9%増）

5. エンジニアリング産業の課題

現在の課題

- 1位「労働力・人材の確保」
- 2位「新規事業の展開」
- 3位「海外営業力の強化」

将来の課題

- 1位「新規事業の展開」
- 2位「労働力・人材の確保」
- 3位「研究・技術開発の強化」

## 要 約

本統計調査は、2018年6月にエンジニアリング協会の会員企業から寄せられたアンケート結果を基に、2017年度（2017年4月～2018年3月）1年間のエンジニアリング産業の動向を調査・分析したものである。1982年以降今回で37回目の発刊となる。

今回回答を得た企業は、①エンジニアリング專業、②総合建設、③造船重機・鉄鋼・産業機械、④電機・通信・計装の4業種にわたるエンジニアリング協会会員57社である。エンジニアリング專業以外の業種については、原則エンジニアリング事業を行っている部門が回答の対象となっている。

### 1. 受注状況

回答のあった57社の2017年度エンジニアリング業務受注高合計は16兆7,746億円となり、国内受注高は、同一企業ベースで前年度比1.7%増、海外も同9.5%増、全体では同3.0%増という結果になり3年ぶりに増加に転じた。国内受注は引き続き堅調に推移している。2015年度、2016年度と不振だった海外受注は、2017年度は前年度比9.5%増と回復した。

業種別で見ると、エンジニアリング專業が、前年度比で25.3%増と大きく受注を伸ばした。前年度は横ばいだった電機・通信・計装の受注も、国内海外とも好調で、全体で10.4%の伸びとなった。総合建設は海外受注が前年度比156.0%増と大幅に増加したが、比重の大きい国内受注が一服し、全体では前年度比で横ばいとなった。造船重機・鉄鋼・産業機械の受注高は、前年度比10.7%減となり、2年連続での減少となった。

プラント・施設別では、引き続き、都市開発・地域開発、電力プラント、交通インフラの3分野のウェイトが大きく、全受注高の63.4%を占めた。本年度は大きく受注を増加させたプラント・施設が増え、産業施設（前年度比31.8%増）、化学プラント（同25.5%増）、環境衛生（同23.7%増）、石油・ガスエネルギープラント（同22.2%増）等が好調であった。前述の通り、本年度の海外受注は3年ぶりの増加となった。

地域別に見るとシェア29.3%の東南アジアが3年連続で1位、北アフリカが14.5%を占め、前年度の4位から2位に浮上、次いで南アジア（12.5%）、大洋州（11.5%）の順となった。

### 2. 今後の受注見通し

本年度アンケート調査の結果に拠ると、短期（2018年度）の受注見通しは18.7兆円となり7.5%増、うち国内（前年度比0.7%減）はオリンピック関連の新規投資が一段落した状況等を反映、海外（前年度比71.9%増）はエネルギー価格値上げに伴う新規大型投資が期待されている。中期（2019～2021年度）では全体の受注見通しで7.8%の増加が見込まれている。国内ではオリンピック後の緩やかな受注環境の改善、海外でも市場の活性化を期待し受注増加を見通している。

### 3. エンジニアリング産業の課題

エンジニアリング産業の現在の課題については、過去6年間に亘り「労働力・人材の確保」が1位に挙げられている。2位は3年連続で「新規事業の展開」となっている。一方、将来の課題では、短期課題で2位の「新規事業の展開」が過去8年に亘り1位に挙がっている。短期課題の1位である「労働力・人材の確保」は将来課題では2位となっている。将来の課題の傾向に関しては、前年度と同様に業種間での顕著な差は見られなかった。

以上